

1 2	知教連 (南知多町)	○篠島中 <small>アサオカ</small> 朝岡 <small>ダイ</small> 大 南知多中 木村 辰浩 日間賀小 赤澤 太一 篠島小 久田 泰弘 篠島中 野口 一輝
-----	---------------	--

分科会番号	1 7	分科会名	過密・過疎、へき地の教育
-------	-----	------	--------------

**主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな島っ子の育成
～「島だからこそ」を意識した小・中での実践を通して～**

1 主題設定の理由

知多半島の先端、南知多町の師崎港から高速船で10分足らずの位置に浮かぶ離島「日間賀島」と「篠島」。両島は、離島ならではの豊かな自然、文化や伝統、漁業・観光資源等、多くの魅力にあふれている一方、生活の不便さもあり、年々人口減少が進んでいる。その煽りも受け、日間賀島にあった日間賀中は令和4年度をもって閉校し、日間賀島の中学生は町内の別の中学校に船で通っている。本実践を行った3校（日間賀小、篠島小、篠島中）は、そんな日間賀島篠島のそれぞれの島の唯一の小・中学校であり、各学年15人程度の小規模校である。

両島は恵まれたことに、地域の方々は誰もが温かく、学校のさまざまな活動・行事等に協力的である。子どもたちは「島の宝」であり、地域ぐるみで大切に育てられている。しかし、離島の子どもたちには、「島だからこそ」のよさがある反面、「島だからこそ」の悩みや困難も多く待ち構えている。それぞれの島には高校はなく、子どもたちは、中学校卒業と同時に、ふるさとの島と親元を離れ、本土で暮らしながら学校に通うか、島から通学可能な学校に進学するかといった選択に迫られる。また学校外で学びたくても、学習塾や習い事の選択肢が限られてしまっている困難さもある。

そこで、両島の3校では、こうした島の子どもたちがおかれた島の環境を鑑み、ふるさとの島を思う心を育むこと、かつ、義務教育終了後に急激に広がるコミュニティの中でも、十分に学んでいける力を育むことが必要であると考えた。そこで、島の現状を生きる子どもたちのより豊かな未来の創造を目指し、3校共通の研究主題を「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな島っ子の育成」と設定し、研究実践を行った。

2 全体を通した目指す子ども像

義務教育9年間のゴールとして目指す子ども像を次のように設定した。

- ・ 地域のよさや課題について理解し、ふるさとの島への強い誇りと深い愛着をもった子
- ・ 周囲の環境の変化にも対応し、人と関わりながら主体的・協働的に学んでいける子

3 全体を通した仮説

目指す子ども像に対し、仮説を以下のように設定し、実践を行うこととした。

義務教育9年間を通し、ふるさとの島について学ぶ学習と、どこでも通用する基本的な学力をつけるための学習を行っていけば、ふるさとの島に誇りと愛着をもちつつも、どんな環境でもたくましく生き抜きぬく力を育めるだろう。

4 本実践の手立て

それぞれの発達段階や児童・生徒の現状、学校の課題等を鑑み、小学校・中学校での重点内容を以下のように取り決め、それぞれの学校で実践を行う。

- 【小学校】（篠島小学校・日間賀小学校）**
 小学校では、総合的な学習の時間を中心に自分たちの島について学び、そのよさや課題について理解を深め、一島民としての意識を育む取り組みをする。
- 【中学校】（篠島中学校）**
 中学校では、中学卒業後に島外で学ぶこと、島外の人とも関わりながら生きて行くことを意識し、一般的に通用する学力の向上を目指した取り組みをする。

5 小学校での実践

(1) 篠島小での実践

① 手立て

本校では、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな島っ子を育成するために、以下の2つの手だてを講じる。そして、島だからこそできる実践へとつなげていく。

ア 地域を題材とした教材の工夫

地域と連携し、地域を題材とした教材を用いることで、子どもたちの学びや体験活動を充実させる。また地域と連携していくことで、教員が異動したとしても、継続的に指導を行うことができる。地域について学ぶことで、地域に関わる面白さを知ったり、地域のよさを再確認したりすることで、ふるさとへの誇りと愛着をもつことへつなげる。

イ 授業の中に地域について理解したことや考えたことを伝え合う活動の設定

授業で地域について理解するだけではなく、自分たちが地域について調べたことを活用する場面を設定する。そうすることで、子どもたちの学習に対するモチベーションを向上させ、自分が地域のために活躍しているという自己有用感を高めていく。他学年の児童や、地域の方、観光する人などさまざまな相手と関わることで、人間性豊かな子へ育てていく。

② 実践

ア 篠島小4年生の実践

【単元】「篠島の環境」(24時間完了)

4月から総合的な学習の時間で、「篠島の環境とウミガメ」というテーマで話し合いを行い、「篠島の環境は今どうなっているのか」「篠島の魅力の一つである自然はどうなっているのか」ということを考え、ウェビングマップを作成した。その後、「篠島をきれいにするため」「ウミガメについて」「ゴミについて」「ウミガメ隊」の4つのテーマに分かれ、篠島についての調べ学習を行った。その後、実際に校外学習で地域の浜へ行き、どんなゴミが砂浜に落ちているかを調べ、ゴミ拾いを行った。

校外学習のゴミ拾いだけではなく、篠島には、平成23年度にウミガメが産卵に来たことをきっかけに、「ウミガメが来るきれいな浜にしよう」という気持ちから児童たちが自主的に海岸清掃を始めて結成された「ウミガメ隊」という活動がある。1学期は毎週水曜日登校する前に、通学団ごとにゴミ拾い活動を行った。その中で、実際に砂浜をきれいにし、篠島をよりよくしたいという気持ちを高めた。

その後図工の時間では、篠島を綺麗にすることを啓発するポスターを作成し、地域のお店に掲示してもらおうように働きかけた。また、国語の「見せ方を工夫して書こう」という単元では、篠島の環境など調べたことをまとめて新聞を作成し、地域の方に発表を行った。また廊下に掲示を行い、他学年の児童にも紹介した。



作成したポスター

イ 篠島小5年生の実践

【単元】「錦津交流大作戦」(24時間完了)

篠島小では、友好交流町村である岐阜県にある八百津町錦津小の児童たちと毎年交流を行っている。6月には、錦津小の児童が臨海学校で篠島小へ、9月には篠島小の児童が林間学校で錦津小へと出向き交流会を開いている。そこで、篠島での6月の交流に向け、自分たちの住んでいる篠島の魅力を伝えることを目的に、総合的な学習の時間を使って、篠島のことについて調べた。自分たちで伝える魅力を決め、「篠島の観光」「篠島の自然」などに班を分け、プレゼンテーションや原稿を自分たちで作成し、発表を行った。5月には中間発表会を行い、プレゼンテーションや、発表で直した方がよいことなどをお互いにアドバイスをしあった。



交流会での発表の様子

他にも「篠島魂」というよさこい踊りの発表をした。この踊りは、篠島小の児童が長い間、受け継いできたものであり、地域の行事である「ぎおん祭」や「御幣鯛奉納祭」でも披露している。加えて、観光協会や漁業協同組合の方などと連携して、砂浜遊びや

魚つかみ、釣りなどを計画していたが、悪天候のため中止になってしまった。しかし、地域の方と連絡を取り合い、生きた魚を触ったことのない錦津小の児童のために、小学校で魚を触る活動を実施することができた。

③ 成果と課題

成果として、地域の方と連携して教育活動を行っていくことで、体験活動を充実させることができた。その中で、「自分たちの住んでいる篠島の魅力って何だろう」「今、篠島はどういう環境なのだろう」ということを考えながら、意欲的に活動する姿が見られた。

活動後の振り返りでは「自分の住んでいる篠島は素敵な場所である」「篠島をもっと綺麗にしていきたい」と考える児童が多く、地域のよさや面白さを感じており、ふるさとへの誇りや愛着をもつことへつなげることができた。

一方、授業の中では地域のために一生懸命考える児童が多いが、授業以外の場では、ふるさとのために自ら何かしようと思えることができる児童は少ない。よりふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな島っ子を育成するため、継続的に活動を実施するだけではなく、問題解決的なカリキュラムを検討する必要がある。児童たちが地域のことを知った上で、「今〇〇することが必要」「篠島のために△△がしたい」と考え、創造的に活動することができるカリキュラムを検討していく。

(2) 日間賀小での実践

① 手立て

本校では、主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな島っ子を育成するため、総合的な学習の時間において、日間賀島について考える新たな探究学習の単元づくりを行った。「10年後の日間賀島のために、あなたは何かができるだろう？」という、単元を貫く学習問題を設定し、日間賀島を「観光業」「漁業」「防災」の3つの面から考え、それぞれに学習コースを設けることとした。

観光業 コース	島内の旅館・民宿組合を通じ、児童を受け入れてくれる場所を募る。児童らは、旅館・民宿での体験活動（食事の準備、部屋の清掃、働く方々との懇談など）に取り組む。
漁業 コース	島内の漁港でシラスの水揚げと競りの様子、競り落とされたシラスが島内の加工会社で加工される様子を見学する。また、漁師さんを学校に招き、日間賀島で行われている漁の種類や漁法などについて学ぶ。
防災 コース	ハザードマップを基にフィールドワークを行い、島内の危険箇所について確認する。また、南知多町の防災危機管理室から職員を招き、島内の備蓄食料の確認、ダンボールベッドや簡易テントを設営する体験を行う。

テーマに迫るため、「児童自ら意思決定し、学びたい学習コースを選択できるようにする」、「クラス・学年を解体し、異学年の小グループで活動する」という2つの手立てを考えた。児童が、「10年後の日間賀島に何かができるか」という問題解決的な探究学習に向かう中で、主体性や協働性を育み、ふるさとへの誇りと愛着を深めさせたいと考えた。

② 実践

【単元】日間賀島探究学習（8時間完了）

ア 観光業コース

島内の旅館・民宿に出向き、体験活動に取り組んだ。児童たちは、旅館・民宿で働く方々から仕事を教わり、「食事会場の準備」「館内の清掃」といった、利用者を迎え入れる準備を体験した。「家が民宿を経営しているので仕事の内容は知っているつもりだったが、実際にやってみると大変だった。これからは、もっと家の仕事を手伝っていきたい。」と振り返るなど、観光業の苦勞に気づき、そこから自分にできることについて考えることができた児童もいた。



旅館での体験活動

イ 漁業コース

島内の漁港でシラスの水揚げと競りの様子を見学した。その後、加工場に運ばれたシ

ラスがどのように加工され出荷されるかについて、加工場で働く方から説明を聞いた。後日、漁師さんを学校に招き、日間賀島で行われている漁法や漁の現状などを学んだ。将来漁師になりたいと考える児童が体験を振り返り、「漁師さんから、海がきれいになりすぎると魚に必要なプランクトンが減り、かえって魚が獲れなくなることを学んだ。魚がたくさん住める海づくりについて、今度は考えたい。」と話した。日間賀島の漁業をよりよくするために、新たな学びに意識を向けることができた。



漁師の方の講話

ウ 防災コース

南知多町が作成したハザードマップを基に、島内の危険箇所を確かめる活動を行った。別日には、南知多町の防災危機管理室より職員を招き、ダンボールベッドや簡易テントの設営体験を行った。防災コースを体験した児童は、「島民だけではなく、観光客に対しても避難する場所や避難にかかる時間などを伝えた方がよいと思った。港や観光船にチラシを掲示してみたいと思った。」と話していた。学んで感じたことを、他者へ伝えたいという思いを高め、具体的な行動についても考えることができた。

③ 成果と課題

児童自らが意思決定し学習コースを選択したことで、児童は主体的に体験活動に取り組むことができた。単元を貫く学習問題に対しても、体験して感じたことや考えたこと、学んだことを基に、自分なりの答えを出そうとする姿が見られた。また、異学年の小グループを編成して体験活動に取り組んだことで、いつもは固定された人間関係や物事の考え方を刷新し、新しい気づきを共有するなど、補い合いながら学習を進めることができた。

課題としては、今年度は体験することに重きを置いたため、今回の探究学習で学んだことをまとめたり、発信したりする場面をつくるには至っていない点が挙げられる。単元計画を見直し、活動やそれにかかる時間数を増やして単元の後半に、学んだことを島民の方々や島を訪れる観光客、南知多町の行政を担う職員の方々に向けて発信する時間を設定するようにしていきたい。

6 中学校での実践（篠島中学校での実践）

(1) 手立て

本校は、素直な生徒が多いものの、学習習慣が身に付いていない生徒も少なくない。また、高校進学後に、島外の生徒と共に学習をしていく中で、勉強に苦勞をしているという卒業生の声もたびたび耳にする。しかし、離島という環境もあり、職員の入れ替わりの間隔が短く、若手教員も多い。また、専門の教科ごとに教員の数は基本的に1人しかおらず、教員同士で授業について相談をしたり、自身の授業を見直したりすることが行いにくい状況であった。こうした状況下において、各教員の授業力の向上という点も急務であった。そこで、教員の校内研修体制の見直しを基に授業内で「分かった・できた」と実感させられるように、次の手立てを取り入れた。

① 教員1人につき、年1回以上の校内研究授業の実施

多忙等を理由に、校内研究授業を全員は実施できていない現状があった。その状況を見直し、年度当初に全員の日程を定め、研究授業を行う。

② 校内研究授業に対する指導案検討組織体制の見直し

授業者が十分検討した上で授業を実施することが、力量向上につながると考え、授業者と現職部会のメンバーでの指導案検討を研究授業前に実施する。

③ 校内研究授業の協議会の実施

授業者および参観者がより深く学ぶ機会として、授業日当日の授業後に協議会を必ず実施する。

④ 学習指導案の工夫

下記の内容に関して、より明確になるように指導案への明記を行う。

ア 多面的な活動や考えを促す発問

授業者の質の高い発問が、対話を生み、深い学びを導き出すきっかけになると考える。よりよい発問を考え、その発問の是非を検討するために、発問とその意図を明記する。

イ 「めあての明確化」「学びの定着」「振り返り」（令和5年度より継続）

普段から、どの教科の授業についても基本的な授業の型として、「めあて」「定着」「振り返り」を徹底するために指導案に明記する。

(2) 実践

年度当初に校内研究授業の日程を示し、研究授業を行った。日程については、1か月前に、日時を最終決定し、2週間前に指導案検討を行うことを徹底した。指導案検討については、授業者および現職部員4名の計5名で行い、目標に対し指導内容が妥当であるか、授業の流れとして無理がないか、発問が適切であるか等、授業者やクラスの実態等も考慮しながら検討をした。場合によっては、複数回指導案検討会を行うこともあった。

研究授業後の協議会についても、授業当日の生徒下校後に行った。拡大した指導案に、授業参観中にメモをした付箋を貼りながら考えたことを全体で共有した。付箋は内容項目ごとに色分けし、ピンクの付箋には「発問」に関すること、黄色の付箋には「めあての明確化」「学びの定着」「振り返り」に関すること、青色の付箋には、「その他」の内容を書くこととし、協議会では、ピンク→黄色→青色の順で検討をするようにした。

指導案については、資料1のように指導上の留意事項の欄に、「発問」および、「めあての明確化」「学びの定着」「振り返り」に係る事項を明記する形に変更した。

「発問」に関しては、その発問を行う目的を指導案の別欄に明記をした。資料1の指導案の授業を例にあげると、この授業では、1年生数学「正の数・負の数」において(-5)-(+

段階	学習活動	時間	指導上の留意事項
つ	1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 本時の学習課題を立てる。		明 (+5)+(-2)のような正の数・負の数の加法を黒板を使って、全体で振り返ることで、本時は、減法を行うことを意識させる。
	(3) 全体で考えを共有する。(15分) ・両方とも同じ →引き算は「減る」計算だから。 ・(-5)-(+2)の方が大きくなる。 →2に+がついているから。 ・(-5)-(-2)の方が大きくなる。 →(-2)の-には、「反対」という意味があるから。 →数直線で考える。 →-の-は+だから (4) 正の数・負の数の減法の考え方を自分の言葉でワークシートにまとめる。		○考えを分類し、同じ考えの系統ごとに、グループ全員で発表させる。 ○生徒の発表や質問から考えに深まりが生まれない場合は、次のような発問を行い、対話を促進させる。 発③「引き算なのに、どうして増えるのですか。」 発④「反対とはどういうことですか。」 発⑤「一の-はどうして+なのですか。」 振 ワークシートのまとめの欄に、自分の言葉でまとめを書かせ、それを数名に発表させる。
追			
究			
す			
る			

資料1 本校で用いる指導案

2)と(-5)-(-2)ではどちらが大きくなるのかという減法についての授業を行った。この授業では指導案上に5つの発問を準備した。そのうち、全体交流の場面では、生徒の考えが行き詰ったところで、発問③「引き算なのに、どうして増えるのですか」や発問④「(-が) 反対とはどういうことなのですか」といった発問を行った。すると、一生懸命自分の言葉で説明する生徒や友達と相談をし始める生徒が出てくるなど、考えが深まる様子を見て取ることができた。一方、この授業の協議会では、限られた時間の中でこの発問を行ったことで、「低位の生徒にとっては、すっきりとした考えを得られなかったのではないか」「クラスの現状と本時の学習段階では、発問が難しすぎたのではないか」といった反省点も得られた。

「めあての明確化」「学習内容の定着」「振り返り」については、指導案の留意事項に明、定、振の形で示すことで意識化し、研究授業や協議会を通して、本校の基本的な授業の型に対する意識の高揚を図った。

(3) 成果と課題

7月に教員対象に実施した校内研修に関するアンケートでは、以下のような回答があった。

- ・発問のタイミング、発問の言葉について子どもの様子を基に有効であったかなどを考えると、自分の授業でも活用しようと思うことのできる内容が多い。発問の意図が明確に書かれていることから、どの部分に着目すればよいか分かりやすい。(20代)
- ・対話を促すために効果的な発問は何かを何度も考えることで生徒の理解力が上がった。効果的な発問ができた時には、生徒自ら考えて問題を解決しようとしたりする姿が見られるようになった。(20代)
- ・言葉を多く言わない、生徒の活動を見守る、コレという発問を意識する、以上のようなことを念頭に置いて授業計画を考えるようになった。また、学力の定着を図るために問題練習の時間を確保した。そうする中で、「分かった」という経験が生徒にある授業とそうでない授業では、生徒の表情、クラスの雰囲気違った。何を伸ばすか、何を考えさせるか、とこれまで以上に意識したということ、指導案検討でさまざまな学びがあったことから、授業者に成長があったと思う。(40代)

この他にも、肯定的な回答が多くあり、校内の研修体制を整え、授業を考える視点を明確

にして研究授業を進めて行くことは、どの世代にとっても意義をなしていることが読み取れる。一方、次のような回答もあった。

・対話が生まれる発問をしようと心がけているが、上手くいくときが少ない。発問に課題があるのか、授業全体として課題があるのか模索しようとしているが上手くいっている気がしない。(20代)

こうした若手教員の悩みの声もある。このような声に対しても、どんな発問が良いのか、どんな授業が良いのか、小さい島の小さい学校だからこそ、職員で寄り添い、一緒に悩み考えていきたい。

また、実施していく中で、指導案検討組織や授業後の協議会のもち方についてさらなる改善点が見えてきた。指導案検討組織については、現在は授業者と現職部員の5名で行っているが、授業づくりにおいて学びが多い場であるため、若手教員が大きな負担にならない程度に参加する枠組みを作っていきたい。また、協議会については、参観者の意見交流があまり活発にできていない。形式を工夫するなどして、誰にとっても参加して学びがあったと思える協議会の形式を模索していきたい。

また、生徒を対象に、4月と7月に授業に関するアンケートを行ったところ、各設問に対して「はい」もしくは「おおむねはい」の肯定的な回答をした生徒は資料2のような結果となった。対話に関する①～③の設問については、①②で高い水準を維持し、発問を意識して授業づくりを行った

番号	回答者 37名中	4月		7月	
		人数	割合	人数	割合
①	授業中の話し合い活動に、前向きに参加できている。	32	86.5%	30	81.1%
②	授業の中で友達の考えを聞いて、新しい気付きがある。	34	91.9%	32	86.5%
③	自分の考えを伝えたり、周りの考えを聞いたりする活動は、楽しい。	28	75.7%	30	81.1%
④	授業ごとの「学習のめあて」や「目標」を意識して授業に参加している。	32	86.5%	25	67.6%
⑤	授業の中で「わかった」「できた」という場面がある。	36	97.3%	33	89.2%
⑥	各授業の振り返りを書くときには、その授業で何を学んだのかを意識して振り返るようにしている。	34	91.9%	30	81.1%

資料2 生徒へのアンケートの推移

成果から③には向上が見られた。一方、④～⑥の設問は令和5年度から継続して行っている内容であるが、肯定的な回答の減少が顕著にみられる。これは、継続して続けてきたことによるマンネリ化が教員にも生徒にも出てしまっているのではないかと考えられる。こうした授業の土台がぶれないようにテコ入れを図っていきたい。

7 全体を通した成果と課題

令和6年7月に、篠島中3年生12名を対象に「島についてのアンケート」を行った。この結果、小中学校の9年間の学びを通し、全員が篠島のことを好きだと答えている。これは、小学校で継続的にふるさとの島に関する取り組みをしてきている成果である。現在、本土の中学校に通っている日間賀島の中学生についても、小学校のこうした取り組みでふるさとの島への愛着や誇りを十分育てているだろうと推察できる。一方、「将来、篠島で過ごしたいか」のアンケート結果に関しては、「篠島に住みたい」の回答は多くはない。そこには、離島ならではの難しい理由がある。「将来の夢を島では叶えられない」「仕事の種類があまりない」「好きだけれど船代がかかかったりと不便だから」など簡単には解決できない理由がそこにはある。しかし、葛藤がありながらも島を思う心が子どもたちには十分育まれていることは読み取れる。

<u>○篠島のことは好きですか。</u>	
はい	… 8
どちらかといえば はい	… 4
どちらかといえば いいえ	… 0
いいえ	… 0
<u>○将来、篠島で過ごしたいと思いますか。</u>	
篠島に住みたい	… 1
篠島とは離れて住むと思うが、たまには篠島に帰ってきたい。	… 11
篠島からは離れたい。あまり帰ってきたいと思わない。	… 0

資料3 島についてのアンケート

学習面では、中学2・3年生の令和6年4月の学力テストの結果には成長が見られた。しかし、まだまだ多くの課題がある。だからこそ、今後より一層の教員の力量向上と義務教育9年間での子どもの成長を意識した小中連携の推進を図り、島の子どものためのより豊かな未来の創造の手助けをしていきたい。